

鬼滅の刃 第2期 第11話

タイトル: 今夜

キャラリスト:

竈門 炭治郎、嘴平 伊之助、竈門 禰豆子、宇髄 天元、鯉夏、墮姫

Japanese script from unknown transcriber (kitsunekko.net)

Japanese transcribed and organized by Dayfairies

English translation from GogoAnime subtitles

English transcribed by Kiriban

Do not ask for permission to edit. Please read Kiriban's [FAQ](#) for more usage details.

禿1 花魁、花魁！遊ば、遊ば！

鯉夏 はい、はい。

禿2 花魁！

鯉夏 ん？

禿2 ご本読んで！

鯉夏 いいわよ。どれにするの？

禿2 ん～とねえ…。

禿1 わっちも！わっちも読んで！

鯉夏 じゃあ、先にこれを読んで、終わったらそれも読もうか？

禿2 わっちあとでいいよ！

禿1 わっちだって！

禿2 あ～すぐにまねする！

禿1 だって～！

鯉夏 あらあら…あつ、そうそう！

 その前に、2人にはこれあげる。

禿1 なにになに？

禿2 何くれるの、花魁？

禿1、禿2 うわあ～！

禿2 でも...これ鯉夏花魁が大事にしてるものじゃ...？

鯉夏 いいのよ、気を使わなくても。私は2人のことが好きで、私があげたいんだから。ウフ。

禿1、禿2 わあ...ありがとう！

禿1 花魁、花魁！かんざしつけて！

禿2 早く、早く！

鯉夏 はい、はい。順番ね？

楼主 いなくなった？

新造 はい。あの...善子なんですけど。黄色い頭の。
 気を失ってるのを寝かせていたんですが、部屋にいないて...。
 捜させますか？

楼主 やめろ。もういい、捜すな。
 足抜けだ。俺は知らん！
 どこかへ逃げたんだろう？放っておけ。

新造 でも旦那さん...。

楼主 黙らねえか！

新造 あっ！

楼主 下がれ！
 二度と善子の話はするな！
 皆にもそう伝えておけ。
 蕨姫花魁の気に障るようなことをするからだ！善子も、お三津も...。

伊之助 だ～か～ら～！俺んとこに鬼がいんだよ！

炭治郎 いや...。

伊之助 こういうヤツがいるんだって！こういうのが！

炭治郎 うん、それは、あの...ちょっと待ってくれ。

伊之助 こうか！これなら分かるか！

炭治郎 そろそろ宇髄さんと善逸が定期連絡に来ると思うから...

伊之助 こうなんだよ！俺には分かってんだよ！

炭治郎 うん、うん...

宇髄 善逸は来ない。

炭治郎 あっ...！

伊之助 (考え) こいつ...やるヤツだぜ。

 (考え) 音がしねえ。風が揺らぎすらしなかった。

炭治郎 善逸が来ないって、どういうことですか？

宇髄 お前たちには悪いことをしたと思ってる。

 俺は...嫁を助けたいがためにいくつかの判断を間違えた。

 善逸は今行方知れずだ。昨夜から連絡が途絶えてる。

 お前らはもうここから出ろ。階級が低すぎる。

 ここにいる鬼が上弦だった場合対処できない。

 消息を絶った者は死んだと見なす。

 あとは...俺一人で動く。

炭治郎 いいえ、宇髄さん、俺たちは...

宇髄 恥じるな。

炭治郎 あっ...

宇髄 生きてるヤツが勝ちなんだ。機会を見誤るんじゃない。

伊之助 待ってよ、おっさん！

伊之助、
炭治郎 ああっ...

炭治郎 俺たちが一番下の階級だから、信用してもらえなかったのかな。

伊之助 俺たちの階級、庚だぞ。もう上がってる。

炭治郎 えっ？

伊之助 階級覚えてるか？

前は一番下の癸だったろ。今は下から4番目、庚だ！

村田 (想像)くうっ！追いつかれた！

伊之助 (想像)グハハハハ！ざまあみろ、小便漏らしめ！すぐに抜いてやるぜ！

村田 (想像)なんだと、このクソ猪！

伊之助 (想像)やんのか、こら！

伊之助、村田 (想像)ああっ！

伊之助 いいか？見てろ。

階級を示せ。

どうだ！

炭治郎 へ～…。

(考え)何それ…。

伊之助 あ？藤の山で手えこちょこちょされただろ？

炭治郎 こちょこちょされた覚えはあるけど、疲れてたし…。

伊之助 藤花彫りつつって、言葉と筋肉の膨張で浮き出るんだってよ。

炭治郎 こういふことって知らなかった…。

伊之助 鬼殺隊の印だ。

炭治郎 ハア…。

伊之助 元気出せよ！

炭治郎 そうだ！こんな場合じゃないんだ、ごめん！

夜になったらすぐに伊之助のいる萩本屋へ行く。

それまで待っててくれ。一人で動くのは危ない。

伊之助 なんでだよ！

炭治郎 今日で俺のいる店も調べ終わるから！

伊之助　くっ...俺のところに鬼がいるって言ってんだから、今から来いっつうの！

あつたま悪いな、てめえはホントに！

女将　うるっさい...。

炭治郎　違うよ～！

伊之助　あ～ん？

ふん！ふん！ふん！

炭治郎　夜の間、店の外は宇髄さんが見張っていただろ！

いたたたた！

でも、善逸は消えたし、伊之助の店の鬼も、今は姿を隠してる！

伊之助　ふん！ふん！ふん！

炭治郎　ちょっと！ペムペムするのやめてくれ！

建物の中に、通路があるんじゃないかと思うんだよ。

伊之助　あっ...通路？

炭治郎　そうだ。しかも店に出入りしてないということは、鬼は、中で働いてる者の可能性が高い。

鬼が店で働いていたり、巧妙に人間のふりをしていればいるほど、人を殺すのには慎重になる...バレないように。

伊之助　そうか...殺人の後始末には手間がかかる。血痕は簡単に消せねえしな。

炭治郎　ここは夜の街だ。鬼に都合がいいことも多いが、都合の悪いことも多い。

夜は仕事をしなきゃならない。いないと不審に思われる。

伊之助　そうだな。

炭治郎　俺は、善逸も宇髄さんの奥さんたちも、みんな生きてると思う。

そのつもりで行動する。必ず助け出す！

伊之助にも、そのつもりで行動してほしい。そして絶対に...死なないでほしい。

それでいいか？

伊之助　フッ...お前が言ったこと全部な...今俺が言おうとしたことだぜ。

禿1 花魁、お茶お持ちしました。

鯉夏 ありがとう。もう支度はいいいから、ご飯を食べておいで。

禿1 は～い。

ご飯お先で～す。

禿2 お先で～す。

禿1、禿2 ヘヘツ…。

鯉夏 ん？

禿1 鯉夏花魁大好き！

禿2 わっちも大好き！

鯉夏 フツ…はい、はい。私も大好きよ！分かったから行きなさい。

禿1、禿2 は～い。

禿1 花魁うれしそうだったね？

禿2 ねえ～！

禿1、禿2 ハハハッ！ハハハッ！

鯉夏 あの子たちったら…。

炭治郎 鯉夏さん。

鯉夏 あっ…。

炭…ちゃん？

炭治郎 ぶしつけに申し訳ありません。

俺は、ときと屋を出ます。

お世話になった間の食事代などを、旦那さんたちに渡していただけませんか？

鯉夏 炭ちゃん、その格好は…。

炭治郎 訳あって女性の姿でしたが、俺は男なんです。

鯉夏 あっ、それは知ってるわ。見れば分かるし…声も…。

炭治郎 えっ？

鯉夏 男の子だっていうのは、最初から分かったの。何してるのかなって思っただけだけど...

炭治郎 (考え) まさか、バレていたとは...

鯉夏 事情があるのよね？須磨ちゃんを心配してたのは、本当よね？

炭治郎 はい！それはもちろんです。ウソではありません！

いなくなった人たちは、必ず助け出します！

鯉夏 ありがとう。少し安心できたわ。

私ね、明日には、この街を出ていくのよ。

炭治郎 そうなんですか！それはうれしいことですね。

鯉夏 こんな私でも、奥さんにしてくれる人がいて...今本当に幸せなの。

でも...だからこそ、残していくみんなのことが心配でたまらなかった。

嫌な感じのする出来事があっても...私には調べる術すらない。

炭治郎 それは当然です。どうか気にしないで、笑顔でいてください。

鯉夏 私は、あなたにもいなくなってほしくないのよ、炭ちゃん。

炭治郎 では、行きます。

お幸せに。

鯉夏 ありがとう。炭ちゃんもね。須磨ちゃんのこと、よろしくね。

炭治郎 はい！

鯉夏 ん？何か忘れ物？

墮姫 そうよ。忘れないように食っておかなきゃ...あんたは今夜までしかいないから。

ねえ、鯉夏？

鯉夏 あっ...！

炭治郎 (考え) マズい。ほとんど日が落ちかけてる...早く伊之助の所へ！

あっ...

(考え) においがする。甘いにおいが、かすかに...

(考え) 鬼だ...鬼のにおいだ。近くにいる！まさか！

伊之助 遅いぜ。もう日が暮れるのに来やしねえぜ！惣一郎のバカ野郎が！

俺は、動きだす！猪突猛進を、この胸に！

くう...だあ～！

ねずみども！刀だ！

あいつ...やるヤツだぜ。

ねずみたち ムキッ...ムキッ...ムキッ！

伊之助 ムキムキねずみなんて下部を用意してるなんてよ...俺も忍獣使いてえ！

ねずみたち ムキッ...ムキッ...ムキムキ！

伊之助 行くぜ。鬼退治！

猪突...

... 猛進！

宇髄 善子と雛鶴はどうした？

楼主 あっ...。

宇髄 簡潔に答えろ。

問い返すことは許さない。

楼主 善子は消えた。雛鶴は、病気になって切見世へ...。

宇髄 心当たりのあることを全て話せ。怪しいのは誰だ。

信用して言え。

そいつは必ず俺が殺す。

敵を討ってやる。

楼主 お三津…。

蕨姫という花魁だ。日の当たらない北側の部屋にいる。

宇髓 (考え) いない…人を狩りに出ているな。

(考え) 鬼の気配を探りつつ、雛鶴の所へ行こう。まだ生きていれば情報を持つてははずだ。

(考え) どのみち、夜明けには鬼もここへ戻るはず。俺の手で必ず…片をつける。

炭治郎 (考え) においが強い。間違いない！

鯉夏さん！

ハッ…！

堕姫 鬼狩りの子？

来たのね。そう…。

何人いるの？1人は、黄色い頭の醜いガキでしょう？

柱は来てる？もうすぐ来る？

あんたは柱じゃないわね。弱そうだものね。

柱じゃないヤツはいらないのよ。分かる？

炭治郎 (考え) 体…どうなってる？

(考え) 鯉夏さんの体がない。出血はしてない。血のにおいはしない！

堕姫 私は汚い年寄りと、不細工を食べないし。

炭治郎 ハッ！

(考え) 上弦の…陸！

その人を放せ！

堕姫 誰に向かって口を利いてんだ、お前は！

炭治郎 くっ…！

(考え) 速い…見えなかった。

(考え) 上弦…。

(考え) 手足に力が入らない。体がしびれて...！

(考え) 落ち着け！

(考え) 体は反応できてる。そうじゃなかったら、今生きてない！

(考え) 手足に力が入らないのは...俺がおびえているからだ！

(考え) 体がしびれているのは、背中を強打してるから当たり前！

(考え) あの鬼の武器は、帯だ。異能がある。人間を帯の中に取り込める！

(考え) 建物の中を探しても探しても、人が通れるような抜け道がなかったわけだ！

(考え) 帯が通れる隙間さえあれば、人を攫える！

墮姫

生きてるの？

ふ～ん？思ったより骨がある。

目はいいね。きれい。

目玉だけほじくり出して食べてあげる。

炭治郎

ハッ！

(考え) 箱は...壊れてない。でも次に攻撃をくらったら壊れる！

禰豆子、ごめん。肩紐がちぎれた。背負って戦えない。

禰豆子

ん...。

炭治郎

箱から出るな。自分の命が危ないとき以外は。

禰豆子

んん...。

墮姫

フフフフ...。

炭治郎

水の呼吸、肆ノ型！

(考え) 打ち潮、乱！

くっ！ふっ！

墮姫

フッ！

炭治郎

うっ...ぐっ！うう...うっ！

墮姫 んっ！

炭治郎 くっ…。

墮姫 空中での身のこなし、悪くなかった。

そして…上手に斬り離れたわね。鯉夏を閉じ込めている所を。

かわいいね？不細工だけど。

なんだか愛着が湧くな、お前は。死にかけのねずみのようだ。

炭治郎 (考え) 上弦の陸…やれるか？

(考え) 宇髄さん、善逸、伊之助のいない中…一人で上弦に！

(考え) いや、やれるかじゃない。

(考え) やるんだ！

墮姫 フッ…。

炭治郎 くっ…！